

都市再生整備計画 事後評価シート

小林地区

令和2年3月

奈良県御所市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	奈良県		市町村名	御所市		地区名	小林地区		面積	36ha				
交付期間	平成25年度～29年度		事後評価実施時期	平成31年度		交付対象事業費	247.8百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
	基幹事業		既存建築物活用事業(地域交流センター、避難所)											
	提案事業		地域創造支援事業(街路灯整備、陶芸釜用建屋等整備)、まちづくり活動推進事業(子ども和太鼓教室の開催)											
	当初計画から削除した事業		提案事業		事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業		提案事業		事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
交付期間の変更		当初変更		平成25年度～29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	施設利用者数	人/年	基準年度	H24	3,000	H29	モニタリング	評価値	5,907	○	あり	地域交流センター(施設名:御所市文化交流センター)の耐震化工事、内装のリニューアル工事、トイレの改修、EVの設置等を実施することによって、施設利用における安全性、快適性の向上が図られた。施設の利用環境が改善したことによって、利用者数が毎年増加する結果へとつながった。	
				目標年度	H29					なし				
	指標2	和太鼓教室の生徒	人/年	基準年度	H24	66	100	H29		60	△	あり	地域交流センター(施設名:御所市文化交流センター)の改修によって防音室を設ける等、施設の利用環境の改善によって、和太鼓教室の生徒は増加傾向にあり、事業の効果が認められた。しかし、指導者の確保や楽器の数が限られている等、受け入れ態勢に限界があることが、生徒数が伸び悩む直接的な要因となり、数値目標が未達成となった。	令和3年3月31日
目標年度				H29					なし					
指標3	避難所ルートの認知度	%	基準年度	H24	12	50	H29		73.9	○	あり	指定避難所である地域交流センター(施設名:御所市文化交流センター)の耐震化工事によって、避難所の安全性の向上が図られた。また、街路灯整備によって、夜間においても安全に避難できる環境整備が図られた。過年度の集中豪雨においては、自治会の役員が高齢者や体の不自由な方を避難所(御所市文化交流センター)へ輸送する自主的な取り組みが行われた。避難設備の改善や実際に避難所へ避難する実践的な取り組みが、地域住民の防災意識を高めることとなり、避難ルートの認知度の向上につながった。		
			目標年度	H29					なし					
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	教室・クラブ団体数	団体	基準年度	H22			モニタリング	評価値	23.0		あり	地域の人が交流し活動する場は着実に広がっている。	
4)定性的な効果発現状況	過年度の集中豪雨において、災害の危険性が高まった際には、自治会の役員が高齢者や体の不自由な方を指定避難所(御所市文化交流センター)へ輸送する自主的な取り組みが行われた。地域コミュニティの形成を通じて、地域の団結力・防災力の向上が見られ、本事業における効果が認められた。													
	実施内容													
5)実施過程の評価	モニタリング		実施状況					今後の対応方針等						
			都市再生整備計画に記載し、実施できた											
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
住民参加プロセス	御所ラグビーフェスティバルにおいて、玉島高校(岡山)、竹園高校(台湾)等、国内外から参加のラグビーチームを含め、地域交流センター(施設名:御所市文化交流センター)や避難所(施設名:御所市地域交流センター)に招き、おもてなし、交流を図るイベントを開催した。イベントを通して、地域住民同士の親睦が深まり、地域コミュニティの活性化につながる機会となった。		都市再生整備計画に記載し、実施できた											
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					● 住民の主体的な活動に対し、市は支援を行い、地域コミュニティの活性化を促す。						
持続的なまちづくり体制の構築	御所市文化交流センターを多くの人に利用していただくため、自主活動団体の利用だけでなく、ソフト事業の充実を図り、陶芸教室、洋画教室、子ども和太鼓教室等、実際に来て体験してもらえる事業を行う。		都市再生整備計画に記載し、実施できた											
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					● 体験会等の企画・開催は自主活動団体にまかせ、市は支援を行う。						
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												

様式2-2 地区の概要

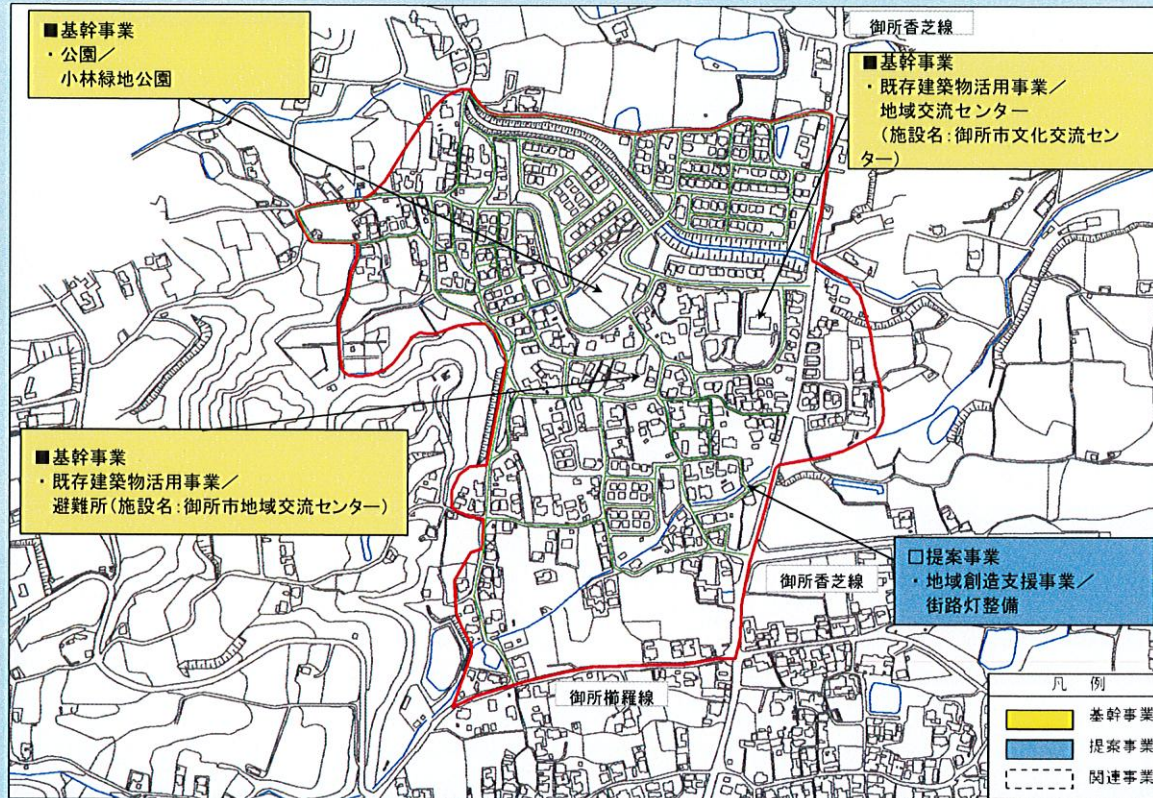
小林地区(奈良県御所市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	施設利用者数	単位: 人/年	2,328	H24	3,000	H29	5,907	H29
大目標 安全で安心して暮らせる文化交流をおとしてのまちづくり	和太鼓教室の生徒	単位: 人/年	66	H24	100	H29	60	H29
目標1 芸術を介しての人と人との交流ができるまちづくり	避難所ルートの認知度	単位: %	12	H24	50	H29	73.9	H29
目標2 新たな市民の集まる場所づくりを行うことにより、多くの人が集い健やかな暮らしを育むまちづくり (良好な新たなコミュニティの形成づくり)								
目標3 地域の住民が安心して暮らせるまちづくり								

・地域生活基盤施設/
小林緑地公園



・既存建築物活用事業/
避難所(施設名:御所市地域交流センター)



・既存建築物活用事業
地域交流センター
(施設名:御所市文化交流センター)



改修工事
(コミュニティスペースの改修)

・地域創造支援事業
街路灯整備



まちの課題の変化

・地域交流センター(施設名:御所市文化交流センター)を改修し、防音対策を講じた和太鼓の練習場や陶芸、絵画の制作ルーム等、快適な空間を設けることによって、教室・クラブ団体数は、事業開始前の2倍以上に増加し、地域の人が集い、良好なコミュニティ形成の場が創出された。
 ・災害発生時、夜間においても安全に避難所に避難ができるよう、道路の街路灯(LED)を整備した。小林地区は坂道や階段が多い斜面地にあるが、夜間においても安心して通行できる環境が整備された。
 ・地域交流センター(施設名:御所市文化交流センター)を拠点として開催する教室・クラブ活動の定期的な発表会、あるいは、御所ラグビーフェスティバルの機会に地域住民が主催したラグビーチームとの交流会等、さまざまなイベントを通じて、多くの方に集まって頂く取り組みを実践した。
 ・本事業によって上記の効果が認められたが、新たな課題としては、年間利用者数が増加傾向にある地域交流センター(施設名:御所市文化交流センター)を継続的に利用し、利活用を図りながら、さらなる魅力づくりを行い、事業の効果を継続させていくことが求められる。

今後のまちづくり
の方策
(改善策を含む)

・市内における各種イベント、周辺施設と連携したPR活動の強化
 ・関係自治体等との連携、市外におけるPR活動の強化
 ・御所太鼓隊が、和太鼓教室の運営、活動がしやすい環境づくり
 ・地域交流センター(施設名:御所市文化交流センター)を、教室・クラブ活動団体だけの利用ではなく、周辺地域や市民に広く開放された場、環境へと改善